

## 今のお母さんは 忍耐がない？

「子育てがしんどい」。そんな声が、若いお母さんからちらほら聞こえてきます。「子育てもできないなんて、いまどきの母親は忍耐力がない」と非難されそうですが、本当にそうなのでしょうか。

親と子が気軽に立ち寄れる子育て支援スペース「ふらっとスペース金剛」を運営する岡本聡子さんは、社会のあり方や子育ての環境がガラリと変わった中で、お母さんたちは疎外感を感じていると話します。

「昔の母親と比べて、今の母親がダメになったということは決してないと思います。むしろ、母親が孤独に陥りやすい世の中になっているのではないのでしょうか」と問題提起します。

## 失われてしまった 助けの手

岡本さんは、子育てがしんどくなった背景について、こう分析します。

まず、同居家族や兄弟が減ったこと。親子三代が同居していた時代は、母親の代わりに祖母が孫の面倒を見てくれました。また、兄弟が多かったことから、兄や姉が下の子と遊んでくれました。「でも、核家族化、少子化が進み、母親のほかに子どもの面倒を見たり遊んだりする人がいなくなったのです」と話します。

次に、近所の人や友だちがいないこと。夫の転勤などで見知らぬ土地に引っ越し、誰一人知り合いのいない場所で子育てする母親は、言いしれない孤独感を味わいながら子育てをすることもあると言います。「子ども自体が減っているから、最近公園に行っても遊んでいる子どもがいません。ママ友の

夫が仕事に出かけ、家事も終わり、気がつけば小さな子どもと二人きり。まだ言葉も話せない幼児のわが子を見つめながら「この子とどう接したらいいんだろう…」と悩んだこと、ありませんか？昔とは様変わりした子育て環境の中で、お母さんは子どもとどう向き合えばいいのでしょうか。

# もう「子育て」は

# しんどくはない



作りようがないんですよ。」

そして、子どもが問題を起こすと、母親のせいになされがち。「子どもが何かすると、母親の子育てが悪いと言われる、夫に相談すると『子どもの面倒を見るのは母親の仕事やろ』と言われるケースも。お母さんたちは追いつめられているのだと思います」と話します。



岡本さんが講師を務めた、いずみ市民生協「親子・あそびのひろば」スタッフ養成講座では、子育て中のお母さんからさまざまな「本音」が飛び出しました。

## と 離れていい

生活が便利になり、一見、子育てしやすくなったように思えますが、実は、現代社会は「子育てしにくい社会」と岡本さん

## ちょっと手を離して、お茶を飲んでみる。



は言います。

「家事が早く終わる分、子どもをじっと見つめる時間が増えすぎて、かえって心配ごとの種が多くなるんですね。それに、お母さんたちは「何でも自分でやらねば」と思い、逆に手助けを断ってしまうこともあります」

それでも決してお母さんが悪いわけではない、たまには子どものそばを離れ、一杯のお茶をゆっくり飲む時間を持つてみては、と提案します。

「お母さんには、『しんどい』と言える場所、がんばっている自分を認めてももらえる場所が必要なのだと思いますよ」

### 岡本聡子さん

子育てに悩み苦しんだ自身の体験をもとに、「母親の居場所」を作ろうと、同じ母親仲間と民家を借りて「ふらっとスペース金剛」を開設。この10年間で次第に利用者数が増え、多いときには1日20組以上の親子が訪れる。いずみ市民生協「親子・あそびのひろば」スタッフ養成講座の講師をつとめる。

